「ありがとう」は最高の報酬 児童見守り活動拡大中！

公益社団法人戸田市シルバー人材センター（埼玉県）　主幹　白井義則

戸田市SCは前身の高齢者事業団を経て、平成十五年十月に社団法人として設立し、平成二十四年四月に公益社団法人に移行しました。令和二年度の契約金額は約三億千四百七十九万円（労働者派遣事業を含む）、会員数は八百二十六人となっています。

戸田市SCでは、地域班のメンバーが児童見守り活動を行っている

地域班活動の悩み

当センターでは、平成二十一年に地域班を四地域班として再編したのを機に、社会奉仕活動を開始しました。当初は多くの会員が興味を持って参加していましたが、清掃と防犯パトロールという同じ内容の繰り返しでマンネリ化するうちに、参加者の減少や固定化などの課題に直面したのです。

会員からの声で分かった社会奉仕活動の課題は、「仕事と違って報酬がない分、市民から〝感謝される〟という反応を望んでいるが、市民と触れ合う活動となっていない」「知り合いがいないと参加しない。誘いがないと行かない」「センターへの入会は就業のみが目的で、社会奉仕活動の意義が理解できない」「仕事でないため〝やらされ〟感がある」という四点でした。

課題解決のため、事務局主導だった地域班活動を、役員主導に変え協議を重ねていきました。

児童見守り活動で地域班と学校の課題を解決

戸田市は、平均年齢が県内で最も若く、子どもが多く暮らすことから、市では子育て支援に力を入れています。

小学校では児童見守りボランティアを募っていましたが、核家族化や夫婦共働きなどで担い手が集まらず、苦慮しているとの情報がありました。

そんな折、立川市SC（東京都）の児童見守り活動を視察し、課題解決のヒントを得ました。

それは、当センターが児童見守りを行うことで、地域班と学校が抱える課題を同時に良い方向に解決できるのではないか、そしてセンターの認知度向上に寄与するのではないかということです。

そこで、学校側と打ち合わせを行い、令和元年度から児童見守り活動を始めました。

最初は試行的に一校で実施しましたが、現在では市内にある十二の小学校のうち、六校で活動を展開するまでになりました。活動方法は地域班ごとに知恵を出し合い、いかにして参加者を増やすか切磋琢磨しています。

参加者が三倍に

社会奉仕活動の参加者を増やすため、地域班の委員が勧誘した人がセンターに入会するとすぐにLINEを交換し、会員相互が知人となれる取り組みを行っています。

また事務局では、社会奉仕活動を積極的に行っている会員に対し、優先して就業を紹介するよう地域班をバックアップしています。

この結果、令和二年度の社会奉仕活動参加者は延べ千四百三十一人となり、前年度比で約三倍の九百五十人増となりました。

参加会員からは「地域の人から感謝の言葉をいただいた」「児童があいさつをするようになった」「学校のフェイスブックで取り上げられた」「孫の教育の参考になる」など、これまでとは違う前向きで明るい声が多くなりました。活動を通じて会員が〝生きがい〟を得ていることが伝わってきます。

意見交換会の席で、ある地域班の班長が、「ありがとうと児童や学校、地域の人からお礼を言われることがとてもうれしい。これは仕事では得ることができない最高の報酬です」と笑顔で言いました。

児童見守り活動が、会員を引き付ける魅力ある地域班活動となったのです。

4つの地域班が、戸田市内にある6つの小学校で児童の安全をサポート。児童たちのあいさつや、学校・地域の人たちの感謝の言葉が、会員の生きがいにもなっている

全国に広がれ！児童見守りの輪

警察庁の「令和二年十二月末における防犯ボランティア団体の活動状況等について」によると、全国の防犯ボランティア団体数は約四万六千団体、構成員数は約二百四十八万人となっており、ここ最近は減少傾向にあります。

このような社会状況の中、地域が必要としているシルバー人材センターの活動の一つが児童見守りであると思います。

また、公益社団法人の責務として就業を紹介するだけでなく、奉仕活動を通じて社会に貢献して、全国で存在をアピールすることが必要ではないでしょうか。

今後は、市内の全小学校で活動を展開することを目標に、地域に愛されるセンターを目指し、児童見守り活動に取り組んでいきます。